



## モナコ

モナコ共和国  
Principality of Monaco

### ヘラクレスの信仰者が隠れ住んだ港モナコ

●**国名** ギリシャ語の古名モネカスが転訛したもの。紀元前10世紀にフェニキア人が入植した古い港町で、前6世紀頃からギリシャの支配下になった。ヘラクレス神殿が建てられ、隠者が数多く住んだため、ヘリクリス・モネカス・ポルトス（ヘラクレス隠者の港）と呼ばれた。13世紀にイタリアのグリマルディ家が来て現王室のもとを開いた。18世紀末、一時フランス領となったが、1861年独立。1911年立憲君主国に移行。

■**国旗** 赤と白は、13世紀にイタリアのジェノバからこの地に来て、700年以上も王位を継承してきたグリマルディ家の紋章の色。14世紀には既に使用されていたといわれ、フランスから独立後の1881年に正式に国旗として制定された。インドネシアが1945年に制定した国旗が同じデザインだったため、話し合いが持たれたが、共に伝統と歴史があるということで、そのままになっている。ただし、縦と横の比率が異なり、モナコの国旗は正方形に近いので、判別は可能である。

面積 2.02km<sup>2</sup>(皇居ほど)  
人口 3.2万人  
首都 モナコ  
住民 フランス人63%、  
イタリア人、他  
言語 フランス語  
宗教 カトリック



## リヒテンシュタイン

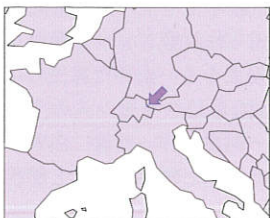
リヒテンシュタイン公国  
Principality of Liechtenstein

### 輝ける石リヒテンシュタイン

●**国名** 「リヒテンシュタイン家」という領主の家名にちなみ、ドイツ語で「輝ける石」の意味をもつ。18世紀初頭に神聖ローマ帝国のカール6世が、シェレンベルク公領とファドゥーツ公領を合体させて、同家に与えたことによって、リヒテンシュタイン公国に昇格。その後、神聖ローマ帝国の崩壊に伴い自治権を獲得し、ドイツ連邦への加盟を経て、1866年に独立を果たした。国土はスイスとオーストリアに挟まれていて、永世中立国だが、スイスの保護下にある。

■**国旗** 紋章は公爵家を象徴する王冠で、国民と統治者が精神的に一体であることを意味している。青は空を、赤は人々が集う暖炉の火を表している。青と赤の2色は国民色ともいわれ、公爵家の使用人の制服に由来する。当初の国旗には紋章がなかったが、1936年のベルリンオリンピックで、ハイチの国旗と区別がつかなかったため、左上に公爵家の王冠が加えられた。現在は、ハイチの国旗にも紋章が加えられている。

面積 160km<sup>2</sup>(小豆島ほど)  
人口 3.5万人  
首都 ファドゥーツ  
住民 アレマン(リヒテンシュタイン)  
人95%、他  
言語 ドイツ語(日常語はドイツ語の  
アレマン方言)  
宗教 カトリック80%、他



## ルクセンブルク

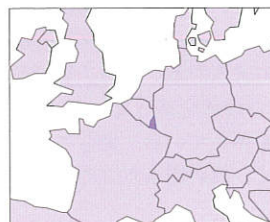
ルクセンブルク大公国  
Grand Duchy of Luxembourg

### 小さな城砦都市ルクセンブルク

●**国名** 「小さな城砦都市」を意味し、昔のローマ街道の宿駅となっていたルツェブルクに由来する。11世紀後半に、この都市を中心に伯領が成立し、ルクセンブルク伯領と称した。14世紀中頃ルクセンブルク大公国として承認され、神聖ローマ皇帝やハンガリー王を出して繁栄したが、衰退してネーデルランドの一部としてスペインに支配された。その後も、オーストリア、フランスの支配を受け、1813年ネーデルランド王国(オランダ)が独立した際、その一部とされたが、67年オランダから独立を果たした。

■**国旗** かつてオランダの統治下にあったため、オランダ国旗とよく似ているが、青がオランダより少し淡い水色になっている。国旗の色は、13世紀に成立したルクセンブルク大公家の紋章に由来する。紋章は、水色と白のストライプに赤いライオンが描かれたもので、古くはこの紋章が旗に描かれていたが、19世紀半ばから紋章に由来する3色旗となった。

面積 2,586km<sup>2</sup>(佐賀県ほど)  
人口 48.1万人  
首都 ルクセンブルク  
住民 ルクセンブルク人73%、  
ドイツ人、フランス人  
言語 ルクセンブルク語、  
フランス語、ドイツ語  
宗教 カトリック



国旗が語る  
国の生い立ち

### ヨーロッパの紋章

●**中世の王や領主が起源** ヨーロッパの紋章の起源は古代にさかのぼるが、紋章が集団のものになる契機になったのは、十字軍の遠征である。騎士団は、それぞれ独自の紋章をもち、国王の許可のもと、それを楯や旗に描いて参戦した。国王や領主も紋章と旗をもち、王旗には王の紋章が加えられた。

ヨーロッパの国で、紋章を国旗に残しているのはスペインとポルトガルが代表で、いずれもいくつかの王家の紋章を組み合わせたものを国章としている。この他、マルタ、リヒテンシュタイン、サンマリノ、アンドラなど中世の領主に国の起源を求められる小国が紋章を使用している。

またユーゴスラビア連邦解体後に独立したクロアチア、スロベニアなどの東ヨーロッパの国旗に紋章が復活しているのも興味深い。



スペイン



ポルトガル



サンマリノ



アンドラ



クロアチア



スロベニア